令和　8　年度

1　自己評価及び外部評価結果

事業所名　：　　グループホームまぶる「いろは館」

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0393000146		
法人名	有限会社ヘルパーはうす		
事業所名	グループホームまぶる「いろは館」		
所在地	〒028-1352　岩手県下閉伊郡山田町飯岡6-14-1		
自己評価作成日	令和8年7月31日	評価結果市町村受理日	令和8年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871　岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者が自分らしく安心して生活できるよう、一人ひとりの習慣や性格を理解し、思いをくみとり、笑いある生活が出来るよう支援しています。また、利用者と共に工夫をこらし装飾や作品作りをしたり、旬の食材を取り入れた食事の提供や季節の行事・誕生会など一年を通じて楽しんで生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2020年6月に開所した事業所であるが、利用者の変化や職員の変化をしっかりと受け止め、今何をすべきかを真摯に話し合っている。その結果として理念を見直し、「一人ひとりの今を　その人らしくまぶります」という新しいものに変えている。利用者をしっかりと見つめ、変わってきている状態に合わせて適切な介護を提供していくという決意を実現するため職員は日々奮闘している。外に出かけたい、昔食べ慣れたものが食べたい、甘いものが食べたいといった利用者の希望をしっかりと聞き取り、可能な限り叶えようとしてくれる職員は頼もしい。体調が思わしくなくても事業所で過ごすことを望む利用者に対して、かかりつけ医と連携してできるだけのことをし、声掛けし、笑っていただく機会を作ろうとしている。家族との連携を密に取っており、信頼も厚い。今年の1月より生産性向上推進体制事業を活用しベッドにセンサーマットを設置している。利用者の心拍数や呼吸数、ベッド上での動きが事務室で把握できるようになり、夜勤時の職員の負担軽減が図られている。このような機器を上手に活用し業務内容を整理しつつ、利用者と過ごす時間を大切にしていこうとしている事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ８ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を「豊かないろはで一笑懸命まぶります。」とし、毎朝理念の唱和をし、様々な知識で互いに笑顔で過ごせる様、日々の介護に努めている。	今年の7月に理念の見直しを行い、「一人ひとりの今をその人らしく大切にまぶります」という新しい理念に変えている。利用者の変わってきた状態に合わせて職員は何ができるのかを話し合い決めている。今後理念の具体化を行い、実践の拠り所として日々のケアに反映していこうと考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の方から、花や野菜をいただいたり、他事業所とお菓子作り等で交流を図っている。また、利用者の出身地のお祭り、地元のお祭りに出向いたりしている。	ボランティアの方によるギター演奏やリトミックで音楽を感じたり、障がい者施設の方と一緒にミニパフェを作ったりと交流を図っている。福祉体験に訪れた中学生とはレクやじゃんけん大会を行い和やかな時間を過ごすことができた。職員のつながりを上手に活かし、地域とつながっていこうとしている。今後は保育園や小学校との交流を探っていきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地元中学生の福祉体験の受け入れや、町主催の認知症セミナーの作業の協力や作品を出品している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員の方々に参加していただき、利用者の状況・ホームの取り組みに状況を報告し、開催時には意見をいただいている。	運営推進会議資料として利用者、職員の状況報告や活動状況、たくさんの写真が掲載された「いろはにほへと通信」等をしっかりと準備している。その報告をしながら委員から質問を受ける形となっており、救急搬送後の流れや介護保険外のサービスについて質問をいただいた。家族代表の出席は持ち回りの形で、遠方の家族が多いため出席の機会は少ない。避難訓練には委員にも参加協力をいただいている。	運営推進会議は事業所の一番の理解者であり、応援団であるもいえる。事業内容の報告に加え、事業所で悩んでいることや希望する地域の情報や意見等を事前に明示し、準備して参加いただく会議の工夫が望まれる。双方向的な話し合いを行うことで事業所のへの理解を深め更なる支援をいただく場となることを期待したい。

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 ８ 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営会議に参加いただき、事業所の状況を理解していただいている。また、町で行われる会議、研修会に参加し、情報交換や電話や出向いて、相談事や意見等協力関係が出来ている。	町主催のケア会議や医療と介護の連携会議等に参加して様々な情報を得たり、事例検討も行っている。災害時には町より避難をどうするか、被害がなかったか等の問い合わせがある。認知症セミナーには職員が参加、利用者はその会で使用される封筒作成のお手伝いを行っている。年に1回町担当課職員とランチミーティングを行い、町内や施設の状況について情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所内での研修会で、職員一人ひとりが身体拘束を行わないケアに対して、方針や日々のケアについても話し合いを行ってケアに努めている。夜間帯は、防犯面も踏まえ施錠している。	身体拘束の事例はない。身体拘束委員会を開催し、年間計画に基づいて研修等も行っている。スピーチロックをしないような意識づけを図り、言い回しの工夫も行っている。外に出かけたい利用者とは職員が一緒に散歩したり草取りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	事業所内での研修会で意識ﾁｪｯｸを用いて職員の意識付けや方針の再確認を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者の中にも、成年後見制度を利用している方もおり、必要な時や相談事等で話し合える機会もある。関係機関や家族との連絡を行い支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には、本人・家族へ不安や疑問に関しても聞き取り、話し合いを行っている。必要書類の説明を行い、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者には、日々の会話やモニタリングやアンケートで意見や要望を取り入れている。家族には面会時・電話連絡・アンケートで意見や要望・意向を確認し、ミーティングや申し送り等で伝達し、ケアプランにも反映させている。	利用者からは食事や外出先についての要望が多く、できるだけ意向に沿えるよう、誕生会、昼食やおやつ作りのメニューに取り入れたり、外出先の選定に活かしている。半数以上の家族が県外に住んでおり、面会や電話の他に年１回のアンケートで意見、要望を聴いている。アンケートは8家族から回答を得ており、家族が事業所に望むことや不安なこと、利用料の値上げへの心配等の記載と共に、職員への労いや感謝の言葉が綴られていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝・夕の申し送りをはじめ、ミーティングで意見交換を行ったり、職員アンケートを年1回行い運営に反映させている。	管理者は職員が話しやすい雰囲気作りを心がけており、日々の気づきを職員間で共有してケアに反映したり、消耗品の故障等にも迅速に対応している。職員は自らのレベルアップしたいことを明確にし年間計画を作成しており、その振り返りも含めてアンケートを実施している。職員個々の抱えている事情や勤務への意向を把握し日々の業務の調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員、個々の研修計画、アンケート提出にて、職員の意欲・実情等の理解を深め、働きやすい職場環境や勤務・休日・有休等を与える事が出来るよう努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各種委員会を中心に法人内外での研修・訓練で知識・技術を身につけれる様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域密着型サービス、地域包括・県社協主催の研修会・会議の参加により、意見交換や交流の機会はある。また、他GHの運営推進会議に参加したり、業務継続計画では町内の事業所と協力体制を構築している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にホームの様子を見学に来ていただいたり、自宅・施設等に実態調査に出向き、本人・家族の実情や要望を聞き取り、サービス導入に向けて環境整備や安心を確保出来る支援についても職員で話し合い、互いの関係性に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申請時・調査時に家族の意見を聞き、本人・家族の実情も踏まえサービス導入時には職員間で情報を共有し、関係作りに努めている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	申請書・調査時には、居宅ケアマネジャー・他のｻｰﾋﾞｽ事業所の情報も得ながら、本人・家族との話し合いの中で、初期の対応内容についても見極め、職員間で情報を共有しケアの内容等も検討しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の個性や得意とする事を引き出し、互いに支え合える関係作りに努めている。また、共に生活する中で、喜怒哀楽に寄り添い、支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	遠方に家族がいる利用者も多いが、面会や通院の報告等で利用者の実情を理解していただいている。また、面会に来れなくても、電話で利用者と話をしたりと、必要な物を立替購入したりと支え合える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	出身地区の方が、患者バスで通院に来る曜日に通院し、知人・友人に会えたり、行きつけの美容室を使い付き合いを続けられる様支援している。	病院で知人に会えることは楽しみとなっている。出身地区が同じ利用者数名でその地区のお祭りに出かけたり、その流れで自宅の前をドライブしたりすることも支援されている。お風呂好きの利用者の家族が週に数回自宅での入浴や温泉に連れて行くこともある。お盆には2名の方が外出し、家族や親戚、地域の方との出逢いを楽しんでいる。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	男性・女性の利用者が居る中で、個々の役割を持ち、食席等でも互いに声を掛け合い、些細な事でも支え合いながら生活できるよう、耳の聞こえが悪い方には職員が介入し、利用者同士が関り合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された方でも家族が遠方にいる方の入院時の支援や退居後の相談事に応じたりと支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やカンファレンス・モニタリング・アンケートと一人ひとりの思いや希望を把握し、職員間で共有し日々のケアや活動等にも活かし支援している。	自らの思いを表示できる利用者が多く、難しい場合でも選択できるような問いかけをしている。一番風呂に入りたい、外に出かけたい、テレビ等で見たものを食べたい等の発言を職員は共有しつつ支援に努めている。早朝から相撲をテレビで見る方や、居室で漫画を見たりクイズを解く一人時間を楽しみたい方への支援が自然に行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には、本人の身上書の提出の義務、病院・施設・ケアマネより情報提供あり、入居に至る経過等も踏まえ、本人・家族・ケアマネジャー等との関係を築きながら支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の過ごし方、バイタル、食事・水分摂取、排泄の有無、変化対応等も記録し、朝夕の申し送りやミーティング等でも情報共有や検討し、何があっても誰であっても対応可能な体制作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスシートを活用し、本人の意向、家族に対する思い、心身機能の状態を把握しながら、家族の意向も取り入れている。 モニタリングでは支援（サービス）内容に対する本人の考えを聞き取り、ケアの現状と、予測される身体状況の変化、認知症状の進行など介護職と共に明確にしながら介護計画作成者が評価し、次月からの介護計画に役立てています。	担当職員が利用者に聞き取りを行い現状を把握しカンファレンスシートに記録している。また、モニタリングにおいても本人・家族の意向や心身の状況、ケアの様子をしっかりと分析しながら介護計画を策定している。ケアプランにはその時々の利用者に寄り添った内容が具体的に盛り込まれ、家族にもきちんと報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人ファイルや通院ノートがあり、日々の経過や通院時の主治医の指示、薬の変更等、記録・カンファレンスやモニタリングにも反映し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況に応じて、事務的なこと以外にも、美容室の送迎、衣類の購入、本来しないとされている町外通院・入院等の対応を支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの方々（ギターの演奏・リトミック）、他施設との交流や地域包括支援センターの認知症セミナーの作業の協力や出品・地元の中学生の福祉体験の受け入れ・地元祭りの郷土芸能の団体には協力していただき、施設敷地内まで来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医を継続している。町外からの受け入れでかかりつけ医を変更となる場合は、本人・家族の承諾を得て変更している。町外の通院は家族対応としているが、精神科の場合は、心身の状況から町内の病院に紹介できない場合もあり、個々の状況に応じている。	職員が診察に付き添い、変化に応じて家族に報告している。時には町外の病院や緊急時の付き添いも行っている。夜間と土日は県立宮古病院への受診や救急搬送となることから、それを防ぐために日常のケアにおいて不安なことかかりつけ医の指示を仰ぎ、早めの受診を心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師の常駐はや看護ステーションとの連携はないが、普段の状況の変化時には、早期にかかりつけ医へ連絡・看護師へ相談し指示を仰ぐ等行っている。また、定期通院でも変化時の観察のポイント等、予測される状態へのアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院時には情報提供シートを病院・施設で活用している。その都度、状況に応じて面会や電話連絡で状況を伺い、医療職、介護、家族で情報交換や相談等行い、退院時の支援に繋げられる様、関係作りを行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に家族と地域医療の現状を踏まえた話し合いを行っている。毎年行う家族アンケートでも、重度化・終末期に関した意向も確認している。また、状態変化時、段階ごとに家族へ連絡し、面会・電話要請し、状況の理解や本人と話をしていただく等支援している。	事業所としては看取りはできないと考えており、状態が変われば区分変更をして特養への住み替えをとしている。しかしながら、食べることができなくなったり、点滴や重度の褥瘡治療、酸素療法などの医療が必要な以外は事業所で最後までお世話したいと考えている。病院とのこまめな連絡や利用者の状態に合わせた対処方法の指示を仰ぐなど可能な限りの支援を心がけており、家族との連絡も密にできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心肺蘇生法や施設に常備しているAEDに関した訓練を、消防署に依頼し実践力を身に着けている。また、施設内でも転倒・誤嚥・現利用者の状態に起こりうる事、急変関する事等、周知勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	町内のハザードマップには、水害・土砂・津波の区域として記載はない。火災はもとより、土砂・水害に関しても反復訓練やBCPシュミレーション訓練・連絡網訓練を行っている。	年に2回、日中と夜間を想定した火災避難訓練を行っている。地域包括職員には全体を見ていただき、地主の方、民生委員や自治会の方には1次避難所から2時避難所までの避難誘導をお願いしている。職員への連絡は自動通報が整えられており、自家発電機や飲料水や缶詰等の備蓄も行われている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの性格・認知症の症状の違いを理解し、方言を用いて声がけをしている。また、周りの利用者との関りを考え、その人らしさを生かせる様、日課や活動等でも対応している。	利用者がどうしたいのかを聞き取りそれに沿うように努めており、利用者が自分で決めることを大切にしている。食器拭きやペーパーたたみ、雑巾縫いや衣類のほつれ修理など利用者に合わせて頼むようにしている。生産性向上推進体制事業として各居室のベッドにセンサーを設置しており、呼吸数、心拍数、利用者の動きが事務室で把握できるようになっており、利用者は夜間居室のドアを閉めたり鍵をかけて休むことができている。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話・食事に関しても主張できる方も多い。職員の判断ではなく、本人の意志を確認している。困難な物事に関しては、表情での汲み取りや、選択肢を用いる事で、自己決定に繋げられる様対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課は大体決まっているが、一人ひとりの希望や体調に合わせた入浴や排泄の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の整容・入浴や外出時の服選び、2ケ月に1回床屋に来設していただき散髪したり、馴染みの美容室を利用している方もいる。季節にあった、衣類の交換も職員だけでなく、家族にも協力していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作りや誕生日には食べたい物を聞き取入れている。また、旬の食材を取り入れたい、手作りおやつ、行事食も工夫しながら食事を楽しんでいただける様行っている。食材切、盛りつけ、食器拭き等の一連同作業も一緒に行っている。	朝夕の主菜や副菜は冷食を活用しているが、昼食やおやつは利用者の希望や旬の食材を組み入れて献立を考えている。お団子を和気あいあいとみんなで丸める姿は楽しそうであった。食事は職員も共に食べており、感想なども飛び交う。誕生日には希望のものを準備してもらったり、季節ごとの行事にはお煮しめやけんちん汁など食べ慣れた食事を楽しんでいる。	

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりのの習慣、嗜好・食事形態・摂取状況を把握し、一日を通じて必要な食事・水分摂取が摂れるよう支援している。また、個人の状況により、補食の提供や形態の工夫をし対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の状況を把握し、食物残差に注意し声がけ・介助にて歯磨き・うがい・義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。また、必要に応じて、歯科受診し口腔内の不具合が生じない様支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、能力に応じた援助を行う事で身体機能維持に繋げて支援を行っている。	利用者ごとの排泄パターンが把握され、必要な支援がポイントで行われている。トイレを使用する方が大半であり、必要なパット類は居室から自分で持って入る。トイレの鍵をかけて使用する方もあり、職員はノックをして許可を得たの後中に入り、状態確認や必要なお手伝いを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎朝、飲むヨーグルトや牛乳の提供と、野菜を多く取り入れた食事の提供を行っている。日々の体操や活動で身体を動かし、継続的に便秘予防対応をしている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 8 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	通院や行事等で変更はあるが、週に2～3回、一人ひとりの希望（順番・時間・温度）に沿った支援を行っている。また、家族と外出した際に入浴してくる利用者もいる。	事業所としては毎日入浴が行われており、１日に3人位が入浴している。通院前や外出前に入浴できるように配慮され、体調に合わせて入浴できている。湯温やお湯につかる時間は希望が尊重され、職員と1対1の会話や歌などをゆったりと楽しむことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣をは把握し、一日の流れの中で食事・入浴後など休息出来るよう支援している。また、日中の活動や、一人ひとりの希望に沿った就寝援助で安眠へ繋げられるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	通院記録や個別ファイルにお薬説明を綴っており、いつでも確認している。また、日々の症状の変化に気を配り、職員間で共有し、通院時、経過や変化に関する報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の日課で、タオル干し、食器拭き、洗濯たたみ等の役割を持ち、縫物や本（週刊誌・まんが）、新聞を購読し読んだりと、個々の時間を過ごしている。また、室内の装飾や行事等で手作りの演出など工夫し楽しく生活出来るよう支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 ８ 年度

２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	年間行事の中でも外出の帰化を多く取り入れている。(花見・祭り見学・紅葉ドライブ・社会科見学・客船見学等)また、天候・気温等も考慮しながら、出掛ける場所を決め外出している。家族の方の協力もあり、自宅へ散髪へ出かけたり、外出・入浴へ出掛ける方もいる。	梅や桜の花見に出かけたり、宮古港に入る客船を見学に皆で出かけている。利用者は外に出かけることをとっても楽しみにしている。家族の協力を得て散髪や入浴に出かける利用者もおり、お盆にも出かけて親戚や知人と一緒の時を過ごした方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事業所の方針として、お金を持つことはしていない。施設・家族も了承し、利用者の中でもお金を所持する方もいるが、地元神社の祭りのお賽銭に使ったり出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつでも可能で、家族に電話する方もいたり、携帯電話を持ってきて、家族との連絡を取り合っている方もいる。また、施設に家族から電話が来た際には、居室でゆっくり話が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は清潔保持や湿度・温度の調整を行い、障害物にも配慮している。また、近隣の方からお花をいただき観賞したり、季節ごとに手作りの装飾を一緒に作り飾り居心地よく過ごせる様工夫している。	日差しの入るホールは明るく、テラスからは山田湾や街並みを眺めることができる。大小のテーブルが置かれ、利用者が安心して過ごすことができるように座席が工夫して配置されている。事業所内は清潔で快適な温度に整えられ、近所の方からいただいた季節の花が飾られている。	

令和 ８ 年度

２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホームまぶる「いろは館」

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールでの席は決まっているが、ソファに座ったり、活動で席を移動したりする事はある。限られたｽﾍﾟｰｽの中で相互等を考慮し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真を置いたり、自宅で使っていた馴染みの小物等を持ち込んだり、自分で作った洋服を持って来ている方もいる。活動で作った装飾等も飾り楽しんでいる方もいる。	コンパクトな広さの居室で、移動時に壁や家具につかまりながら移動しやすい環境である。箪笥、クローゼット、ベッド、整理棚やエアコンが備え付けられている。夜間にゆったりと休めるように遮光カーテンに変更した部屋もあり、夜は居室のドアを閉めて休む。利用者はテレビを見たり、新聞や本などを読むなど１人の時を楽しむことも多い。家族の写真や外出時の写真、自らの作品などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室・トイレ・浴槽等にはわかりやすく表示している。また、杖使用の方には、居室・トイレ・テーブルにも杖置きを設置したり、居室照明も一人ひとりに合わせた調整を行い安全に生活できるよう支援している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］